

はい!

やくも町議会です

第 67 号
令和2年11月
編集／議会広報広聴常任委員会

八雲の牛の健康を守る獣医さん

映像配信中！YouTube
「八雲町議会」で 🔍 検索



主な内容

	ページ
○令和元年度決算審査……………	②
○4名の議員が町政を問う（一般質問）……………	⑧
○補正予算……………	⑫
○議会広報モニター会議……………	⑬
○議件・賛否一覧他（定例会・臨時会）……………	⑭
○常任委員会の活動（所管課報告）……………	⑯
○共済の獣医さんたち（耳をすまして）……………	⑱



R元年度 決算審査

町民の幸せに つながったか？

※主な意見を抜粋しました。

【総務費】

Q ふるさと応援寄附金奨励事業の実施状況と効果は？（三澤）

A ふるさと応援寄附金における総務省の新基準に基づき、まちづくりPR事業として、ふるさと応援寄附金・移住者促進を中心に首都圏でPRを行ってきた。その後のふるさと応援寄附金の状況から一定の効果はあったと認識している。（政策推進課長）

Q 八雲みらいプロデュース会議運営事業の効果は？（赤井）

A 町長の施策に対し、町外有識



おおく ぼけんいち
大久保建一 委員長

者より、新幹線駅周辺整備事業、歴史・文化継承等について様々な意見をいただいている。（政策推進課長）

Q 地域公共交通網形成計画策定事業の今後の計画は？（佐藤）

A 桧山海岸線デマンドバスを皮切りに、町全体の交通網についてマスタープランを作成した。今後も計画に沿って地域住民の方々と協議しながら進めて行きたい。（政策推進課長）

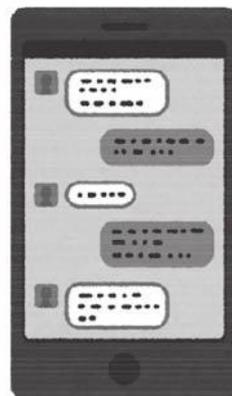


Q 災害対策費において、情報発信におけるLINEの活用を求め

てきたが、進捗状況は？（三澤）

A NTTデータの減災コミュニ

ケーションシステムではLINEを活用した通信手段もあると伺っている。あらゆる通信手段が活用できるものであるが、今後も検討を続ける。（総務課参事）



Q 八雲町まちづくりPR事業について、コロナ禍により事業継続が困難だと思うが、今後の見通しは？（赤井）

A 事業は継続していくが、状況を見ながら実施方法等について検討していく。（政策推進課長）

Q 熊石地域の地籍調査の進捗が遅れているが？（田中）

A 北海道からは効率を重視するよう指導を受けている。まずは八雲地域の調査を行い、その後、熊

石地域の調査を進める。(総務課長)

【民生費】

Q 熊石地域新設統合保育園整備事業について、保育室にも遊戯室にもエアコン設置がされていないが、設計段階より設置検討されていなかったのか？(関口)

A 検討はしていたが、設置コスト、ランニングコストが高価になるため、協議の結果、断念した。(住民サービス課長)



くまいし保育園

Q 風疹追加的対策事業について、全国的に受診率が伸び悩んでいるが、町における対策は？(三澤)

A 風疹追加的対策事業について、全国的に受診率が伸び悩んでいるが、町における対策は？(三澤)

【衛生費】

Q 公衆浴場確保対策事業について、町民も待ち望んでいるが、進捗状況は？(佐藤)

A コロナ禍の影響、また長期間使用されていない施設のため、損傷個所の復旧に想定以上に時間がかかっている。事業主体は民間業者であるが、今後も早期再開を求めていく。(環境水道課長)



田中 裕 副委員長

【労働費・商工費】

A 広報等により今後も周知を進めていく。(保健福祉課長)

Q 産業人材確保・育成事業の成果と今後の課題は？(赤井)

A 事業の成果として「株式会社木蓮」の設立に至ったこと。

今後様々な収益事業を展開しながら、同時に「丘の駅」の運営を軌道に乗せることが大きな課題。

産業界における人材確保・物産振興にも長期的な課題として取り組んでいく。(商工観光労政課長)

Q 脱炭素型地域づくり検討事業の実用化の見通しは？(佐藤)

A 昨年度の取り組みはあくまでも机上検討であるが、町における再生可能エネルギーの今後の検討において貴重なデータを取得することができた。(商工観光労政課長)

Q 上の湯地区既存井現況調査事業について今後の利活用は？(佐藤)

A 源泉の設備改善、現状のポテンシャルの確認を行った。再生可能エネルギーは町長の重要施策であるため、熱利用も含めて議論を進める可能性はある。(商工観光労政課長)

【農林水産費】

Q 有害駆除対策事業について、東野・落部地区の市街地でのクマ目撃情報が相次いでいるが、駆除実績と個体数の推移は？(関口)

A 個体数は確実に増加している。駆除数が増加した場合、予算を増額するなど柔軟に対応していく。(農林課長)



Q 猟友会の報酬額は十分か？
(三澤)

A 見廻りや巡回には時給1250円、捕獲に至った場合は1頭4万円。(農林課長)

命がけの仕事が、この時給では見合わないのではないか。 大久保



北海道二海サーモン

Q サーモン養殖試験事業において八雲地域と熊石地域での金額の違いの内容は？(佐藤)

A 施設整備において、熊石地域は既存の生け簀を使用したため金額が低くなっている。(産業課長)

Q 海洋深層水養殖試験事業において、殺菌海水との比較試験の結果は？(赤井)

A ホタテの殺菌作用について比較試験を実施したが、殺菌海水のほうが良好な結果が得られた。ただし、海洋深層水は活性化を高めることが可能。(産業課長)

Q 沿岸漁業経営改善調査研究事業の実績は？(黒島)

A ホタテについてはあらゆる試験研究を行っている。ほかにマツカワ放流や稚ナマコの放流も行っている。(水産課長)

Q ホタテへい死対策支援事業に関連し、天候不順等により稚貝成育について不安の声が聞こえてくるが、今年度の状況について報告は受けているか？(関口)

A 報告は受けていないが、今後の状況を注視する。(水産課長)

【土木費】

Q 公園修繕事業において決算額が少ないが、内容は？(佐藤)

A 遊具更新において日程調整がつかず昨年度は断念したが、今年度実施している。(公園緑地推進室長)

Q 公園管理事業において、さらんべ公園の公園管理業務が現在直営となっているが、民間委託すべきでは？(千葉)

A 当面の間、民間委託は考えていないが、手を挙げる民間業者がいたら検討したい。(公園緑地推進室長)



さらんべ公園

Q 公用車ドライブレコーダー整備事業の今後の計画は？(横田)

A 車両更新時の装着を含め、今後整備を進めていく。(建設課長)

【消防費】

Q コロナ禍において救急搬送を担う職員の不安や負担が大きいのと思うが、対策は？(三澤)

A 職員の精神的肉体的負担は大きい。職員、関係機関と協議を重ね、今後も対策を万全に対応していく。(消防長)

【教育費】

Q コロナ禍における全道一斉休校について、教育長の思いは？(佐藤)

A 緊急な対応であったが、当町においては各校適切に対応していただいたと思っている。(教育長)

Q コロナ禍時代における教育現場の今後の対応・対策は？(三澤)

Q 学習の遅れ、各家庭における児童生徒の生活環境の把握など、教育現場と協議しながら体制を整備し適切に対応していく。今後GIGAスクールの整備、ICTを積極的に活用しながら連絡網の形成を進めていく。(教育長)

Q 教員住宅改修・解体・修繕事業について、古い施設を改修すること、民間住宅やアパートの借り上げを比較した場合、どちらが有効か？(赤井)

A 比較は難しいが、新築の場合には有利な起債を利用することが有効であるが、一方で解体費用が高騰している。あらゆる角度から検討を進める。(町長)

Q コロナ禍時代における教員の働き方の考え方は？(三澤)

A 教員の働き方改革の必要性、その際の教育の内容等について、教員が主体となり協議を進めている。(学校教育課参事)

Q エアコン等の環境整備について



て、八雲町の今後の対策と取り組みは？(千葉)

A 八雲町の教育現場は整備が進んでいると感じている。環境整備については、町の財政状況等を見ながら調査を進め、対応していく。(教育長)

Q 体育館は避難所としての役割も併せ持つが、熱中症対策を含め、環境整備を進めることは重要と考えるか？(千葉)

A 体育館は避難所という重要な役割を担っている。教育委員会のみならず、町全体で協議、検討を進めていく。(教育長)

進めていく。(教育長)

【歳入】

Q 財産運用収入・売払い収入等の収入未済額の内容は？(横田)

A 土地については、分割による支払いとなったものと、貸付先の倒産によるもの。建物については、徴収を猶予しているもの。(総務課長)

Q アイヌ住宅貸付金収入において収入未済額の記載がないが？(三澤)

A 別途、債権の分類に記載されている。(住民生活課長)

来年度より報告書に記載するなど、わかりやすく記載するように検討していく。(副町長)

【国民健康保険事業特別会計】

Q 不納欠損額、収入未済額の増加の要因は何か？(佐藤)

A 不納欠損については、納期限より5年を経過した消滅時効による案件が多かったことから処分額が増加した。(1219万円・前年

度対比680万円増)

収入未済額は、調定額が増額し、収入額は例年並みだったので、その差額で増加した。(1億3189万円・前年度対比1254万円増)(財務課長)

【水道事業会計】

Q 熱田・大新地区の水道料金設定の現状は？(三澤)

A 中央地区で指定管理をしている営農用水(旧大新簡易水道)は、指定管理者が自前で水道料金を設定して管理運営を賄っている。まだ料金を統一することにはなっていない。(環境水道課参事)

Q 酪農で牛が飲むという需要も考慮して、新たな料金を検討すべきではないか。(三澤)

A 今後、適正な給水収益確保のための水道料金見直しの中で、農業・工業用の料金についても検討していく。(環境水道課長)

【病院事業会計】

Q 看護師が3交代から2交代に変わった効果は？（赤井）
A 時間外の削減、余暇時間の充実という効果が出ている。離職も減っている。（総合病院事務長）

Q 薬剤師は積極的に患者の薬や体調について対応しているのか？（三澤）
A 患者に直接対面して副作用の有無の説明や、飲みやすさ等、要望についてもすくい取るような業務を行っている。（庶務課長）

Q 精神科の医療スタッフの言葉づかい等、研修に力をいれるべきでは？（佐藤）
A 研修体制の充実に努めていきたい。（庶務課長）

Q 監査委員の指摘に対し、総合病院としての見解は？（田中）
A 一般会計からの基準外繰入が、過去最高ということで大変厳しい状況。脳外科医師の退職、内科医

師の不足が経営を圧迫している。内科医師の確保や、経営改善アドバイザーの導入で、総合的な改善を図っているところである。（総合病院事務長）



【総括質疑】

Q 令和元年度は大型事業が集中し、償還の時期も重なる。町民からは、今後どうなるのかという不安の声も聞かれるが、町長の考えは？（赤井）

A 基金は約100億円程度ある。感覚としては、一般会計で約130億円の起債があるが、実際は国の補助等もあるので、約30億円程

基金の状況

単位：千円

区 分	令和2年5月末現在高
財政調整基金	1,291,598
減債基金	544,339
特定目的基金	7,962,954
公共施設整備基金	2,576,542
まちづくり振興基金	122,520
中山間ふるさと・水と土保全基金	5,325
地域福祉基金	31,691
ふるさと振興基金	80,424
地域振興基金	1,100,000
ふるさと応援基金	4,032,893
森林環境譲与税基金	13,559
小 計	9,798,891
定額運用基金（現金）	283,104
土地開発基金（現金）	214,626
奨学基金（現金）	68,478
国民健康保険事業基金	164,089
介護給付費準備基金	114,078
農業集落排水事業償還基金	31,734
合 計	10,391,896

Q 国も道も赤字、コロナの影響もある中、償還時期が来ても大丈夫なのか？（赤井）
A 青年舎や木蓮という会社を通して、人が育ちお金を生む。ふるさと納税も当分は無くならないと思うので、その仕組みはこれから残っていく。（町長）

Q 国も道も赤字、コロナの影響もある中、償還時期が来ても大丈夫なのか？（赤井）
A 青年舎や木蓮という会社を通して、人が育ちお金を生む。ふるさと納税も当分は無くならないと思うので、その仕組みはこれから残っていく。（町長）

Q 国立病院機構八雲病院が、今年8月で76年の歴史に幕を閉じたと試算しているか？（佐藤）
A 財政的には数字を出していないが、かなり影響があるものと思定している。（町長）

Q 病院機能を少しでも残すための努力が必要であったと思うが、考えを伺う。（佐藤）
A 国立病院機構に再三要請してきたが、無理だということで大変残念だと感じている。（町長）

決算特別委員会 委員長報告

令和元年度の決算は、町理事者及び職員各位の努力により、財政の健全化判断比率は適正値内を維持しております。しかし、今後は新型コロナウイルス感染症が地域経済へどのような影響を及ぼすのか、また町税や地方交付税の減少を考えると、厳しい財政運営を強いられることが心配されます。なお、町理事者に伝えるべきであるとの意見で一致した事項について申し添えます。

【基金残高の維持に対する評価】

ふるさと納税新制度への移行によって、寄付額の落ち込みが心配されましたが、まちづくりPR事業の効果もあって、寄付額が20億円を超える結果となったことなどが、基金全体として一定程度の残高を維持できた要因であると評価するところであります。



【町債の今後の償還】

監査委員による審査意見書の意見にもあったとおり、令和元年度は大型事業の集中による町債の増加があり、今後の大型事業の実施状況によっては、償還が一定時期に集中するという懸念があります。これらを慎重に検討され、持続可能な財政運営に向けて、今後の事業の実施や時期を判断していただきたい。

【総合病院の経営改善】

令和元年度決算において総合病院に対する基準外繰入れが増加していることは、監査委員による審査意見でも指摘されているところであり、依然として厳しい状況が続いております。医師確保については、来年4月から内科医師が1名確保され、また総合病院に興味を持たれた医師から病院見学の問い合わせがあるなど、期待されることではあります。医師の充足に向けて、引き続き努力を願うところであります。また、令和元年度に経営改善アドバイザーを導

入し、改善に向けて取り組まれておりますが、医療スタッフと事務方との意思疎通・連携を更に強化し、収益・費用共に、アドバイザー導入の効果が確実に現れるよう、全職員一丸となって取り組んでいただきたい。

決算特別委員会

大久保委員長

反対討論

「国民健康保険事業特別会計決算認定」に反対。

昨年は条例改正もして所得割、均等割、平等割が引き上げられた。元々負担が重い国保税を軽減するために、一般会計の借入れではなく、繰入れを要求して反対討論とする。

佐藤智子議員



議会 今後の予定

《11月》	12日	総務経済常任委員会
	19日	文教厚生常任委員会
《12月》	4日	議会運営委員会
	10日～16日	第4回定例会 各常任委員会
	16日	全員協議会

議会を傍聴してみませんか

次の議会は、

令和2年第4回定例会

12月10日（木）午前10時から
開会の予定です。

お気軽に足を運んでみてください。

YouTubeで映像配信もします

一般質問

町政を問う！

※質問した議員本人が原稿を書いています。

一般質問とは？

町の仕事の全てを問いただし、自由な意見を述べ、それについて町の公式見解を引き出すことのできる機会。

華やかであるが「力量」が問われる。

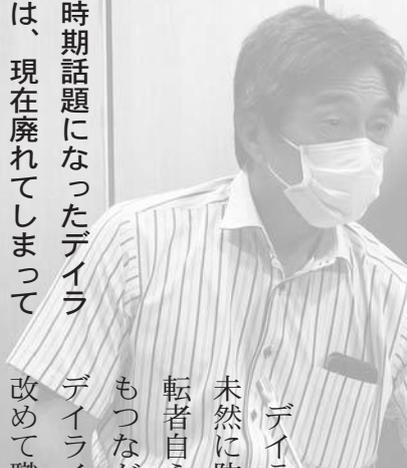
Q

交通事故を少しでもなくすために

A

定期的な周知に努め、交通事故の防止に

よこたきよし 議員
横田喜世志



問 一時期話題になったデイルイト運動は、現在廃れてしまっている。デイルイトの運動になったのは視認性などの良い点だと思う。その点からも八雲町は、公用車へデイルイトの励行をしてはいかかかと思ひ、伺う。

デイルイトは交通事故の発生を未然に防ぐ効果がある。また、運転者自らの交通安全意識の高揚にもつながるので、公用車運転時のデイルイトの確実な実施に向け、改めて職員へ周知を行ったところである。

Q 新生児にも支援を！

A 設定根拠を見出すことが厳しい

問 新型コロナウイルス感染症対策で、総額約3億5千万円（6月12日時点）、その後も確実に施策をして、この額は増えている。その施策を行ったことは大変喜ばしいことだと思うが、国からの支援である特別定額給付金の基準日

（4月27日）以降に出生した新生児に対し、八雲町として独自の施策を行えないか伺う。

町長

国は、これまで様々な支援策を講じてきており、更に八雲町としても、感染症対策の総額は、事業費ベースで約4億5千万円になり、多額の公費を投入し、対策を講じてきた。

特別定額給付金の基準日以降に出生した新生児への給付措置については設定根拠を見出すことが難しく、基準日前後の世帯で不公平感が生じてしまう要因にもなることから、現時点では町独自による施策導入は考えていない。この先の経済状況をしっかりと見極めながら、町民が必要としている支援策を講じるよう柔軟に対応していく。

町長 デイルイト運動は、平成14年頃から取り組みが広がり始め、八雲町においても職員に周知し、取り組んできたところである。しかし、継続した周知が不足していたことから徐々にデイルイトに対する意識が薄まり、取り組みが行われなくなってきた。



Q ラストスパート！焦点はどこ？

A 産業振興・雇用創出・人材育成がキーワード

あかい 赤井 むつみ 睦美 議員



問 ①町政2期目も残り1年。どこに焦点を絞ってまちづくりを進めるのか。

②この7年間で「収益を得られる道筋」を作ってきたが、それらを活かすには、八雲町ならではの教育が必要だと思いがいかがか。

町長 ①人口減少のスピードを少しでも遅らせるため、3つのキーワードを関連付けた施策を

様々な分野に取り入れ、今後も活気ある持続可能なまちづくりを進める。

②小中学校の特別活動の要として、

キャリア教育の充実が強く求められている。学校・地域が連携し、児童生徒がふるさと八雲の産業や歴史、観光資源等を学ぶ意欲を高めるため一層の充実を図る。

問 他自治体では、子ども達の意見を取り入れた企画を実施している。八雲町でも、子ども達が受け身ではなく、積極的に考え実践できるように、町行政として予算をしっかりとつけて社会教育と共に行うことが大切ではないか。

町長 社会教育は大切だと理解している。

教育長 社会参加の意欲を高め、主体的に企画に関わり、つながりを深め、地域のコミュニティの形成と、まちづくりの担い手

の形成と、まちづくりの担い手

なる人材を育成し、町の発展に近づけていく。

日本の食品廃棄量は年間600万トンを超え、毎日10トントラック約1,700台分の量を廃棄しています。



Q ごみゼロ社会に向けて

A ごみ減量化に向けて取り組み！

問 ①ごみの年間総排出量は、人口減少に伴って年々減っているが、一人当たりになると10年間で八雲

地域では34kg、熊石地域では55kg増えている。ごみの減量化は、処理費の軽減を図り、地球環境汚染

を防ぐことにもつながる。減量化に向けた取り組みは？

町長 ①ごみの減量化は、町民一人ひとりが関心を持って減らすことが大変重要で、そのことをどう普及・浸透させるかが課題。八雲衛生協会との取り組みの継続と、各学校で行っているごみの減量化・リサイクルについての学習にも力を入れていく。

問 ②今後、生ごみの次に問題になるのが使用済み紙おむつ。環境省は今年3月にガイドラインを作り、使用済み紙おむつから新しいパルプを作ったり、熱回収をする方向で取り組んでいる自治体もある。また、国土交通省も今年から、水洗トイレに紙おむつを破碎する機械をつけて、下水道に流せる方法を検討している。すぐに実践できなくても、紙おむつだけ別回収し、その時に備えてはどうか？

町長 紙おむつに関しては問題だと思っている。視察の成果も活かし、取り組んでいきたい。

Q 現状の性教育は不十分だ

A 学習指導要領の範囲で適切に行っている

みさわ 三澤 議員
きみお 公雄 議員



問 八雲小学校では、6年間に4回しか性教育を学ぶ機会がない。就学前にプライベート・ゾーンという水着で隠れる部分は大切だ、という指導も町としては取り組んでいない。今、必要な性教育は単に体の変化を教えるのではなく、心の成長も含め、特に女性の地位が低い日本においては、人権教育の性格も併せ持つと思う。教育委員会ではどう考えているのか。

一方で総合病院には17年以上も個人の努力で性教育の現場に向き合い、講演活動をされている方が

いる。町として支えられないのか？

町長 これからは思春期保健相談士の資格維持の講習会参加については公費負担とする。更に町外への足代についても個人負担のな

い形で対応したい。

教育長 国の定めている学習指導要領、これを超えることを推進する気はない。

質問を終えて

「学習指導要領の定着している解釈」の矛盾。

「国際セクシュアリティ教育ガイドダンス（2009年ユネスコ）」では、5〜18歳を4段階に分けて、必要な知識を教え、妊娠や避妊についても、中学生までに教えるの

が国際基準となっている。

一方、日本の刑法では「性行為に同意する能力がある」とみなされる年齢（性交同意年齢）を13歳と定めているが、中学の学習指導要領では性交や避妊を扱ってはいけないという解釈が定着している。（国際基準を尊重した教育をする県教委もある。）

知識がない中で、どうやって暴力や犯罪から身を守り、「望まない妊娠をしない・させない」ということが出来るのだろうか？

Q ごみ処理は

このままでいいのか？

A 私も同じ考え

問 ごみの広域処理「クリーン渡島」の償還は令和14年までと

なっているが、持続可能なまちづくりを標榜するのであれば、自前で焼却施設を持ち、その熱エネルギーも有効活用し、新たな雇用も生み出す道もある。更に多くの食品残渣物が焼却されているが、食品残渣物だけでバイオガス発電を

やっている町もある。持続可能で次世代にもアピールできる施策を目指すべきと考えるが、町長の考えは？

町長 私も新しい施設を整備するとすれば、指摘のとおりと考える。リサイクルを進め、焼却処理の量を減らす研究や、これから一番増えると考えられる紙おむつについての研究も深めている。令和14年を待たないでやりたいと考えている。

令和2年度 主なごみ処理関係予算

渡島廃棄物処理 広域連合負担金	1億7,534万円	町外に出て行くお金
塵芥収集業務委託料	1億3,399万円	町内で循環するお金
リサイクルセンター 維持管理業務委託料	3,389万円	
最終処分場管理 運営業務委託料	1,369万円	

Q サランベ川対策について

A 道と協議しながら進める

さとう ともこ 議員
佐藤 智子



回に及ぶ議論を重ね、提言をまとめた。

その内容は、ダムに切り込みを入れて、溜まっている土砂を下流に供給するスリット化を行うとともに、河床低下部分には石材での被覆や袋型根固めの設置等を行い、土砂を補足・堆積させるもので、

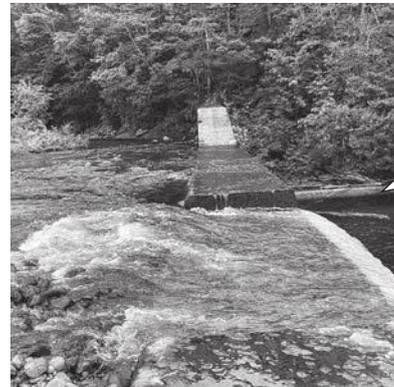
問

サランベ川には治山ダムが1つと砂防ダムが2つある。砂利がせき止められて下流に流れていないために、川底が掘れて崖ができていく。大雨災害で町道や農地にも影響が及ぶ。海の汚染につきながり、水産資源の死滅を招くことも考えられる。これらを防ぐためにどんな対策を考えているか。

町長

平成25年3月に、砂防ダムと河川を管理する北海道函館建設管理部と八雲町が事務局となり、サランベ川河床低下対策検討委員会を設立し、平成28年7月まで9

活動が続けていく。



幅5m高さ50cmのスリット

令和2年1月3日、スリット化工事に着手。上から下までの深いスリットが早急に必要。

Q 防災人材の育成を

A 育成を推進していく

問

頻発する豪雨災害に備えるために防災人材の育成は急務である。高齢者や障がい者の避難支援を考えるうえで、例えば、ケアマネジャー等と協力する大分県別府モデルなどを参考に、人材育成プランを立てるべきではないか。

また、避難先の女性や母子のケアに心を配れる女性人材を育てる必要がある。年に1回以上、防災

講演会を開くなど、研修に力を入れてはどうか。

町長

本年7月の熊本県球磨川の発生により、各地で多くの被害がもたらされた。八雲町においても防災対策の推進が肝要だ。

現在、防災専門の人材育成プランは立てていないが、防災担当職員は積極的に多団体の訓練、研修に参加している。今後より多くの専門知識や技術を習得できるように育成を推進したい。

地域の防災リーダーの人材育成や、防災教育のあり方についても検討していく。

また、女性や母子のケアに、避難所における女性職員の配置等も検討する。

防災講演会は、開催方法を勘案し、役場職員、地域住民に対し、防災意識の普及や人材育成につながるよう考えていきたい。

第3回定例会

令和2年度一般会計補正予算

6億3,234万1千円追加

(補正後の総額 179億647万3千円)

第3回定例会は9月10日から9月16日まで5日間の会期で開かれました。補正予算、条例の改正など議案16件を審議し、いずれも原案通り可決しました。

補正の主な内容



今年は今世代に助成
**インフルエンザ予防接種
助成事業**
1,472万8千円

新型コロナウイルス感染症の医療体制確保のため、インフルエンザの流行を抑えていく必要があることからインフルエンザワクチンの接種率を向上させるための予防接種費用の一部を負担するものです。

自己負担額

6ヶ月以上～13歳未満 一回につき 1,000円
(6ヶ月以上～13歳未満の方は2回接種が必要)
13歳以上～65歳未満 2,000円



町内全域に光ファイバ
**高度無線環境整備
推進事業負担金**
3億6,753万4千円

町内の光ファイバ未整備エリアに、光ファイバを整備するものです。

研修牧場施設整備 事業補助金 3,000万円

**相沼地区消防格納庫新築工事
実施設計業務委託料 205万5千円**

新型コロナウイルス感染症関連

民生費

放課後児童健全育成事業費補助金 480万3千円

一時預かり事業補助金 35万円

保育対策総合支援事業補助金 194万3千円

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業補助金 432万9千円

病院会計

PCR検査機購入 (LANP法3台) 660万円

中央6階病棟換気設備改修①② 396万円

感染症対策従事者慰労金 1億300万円

発熱外来設置関連 270万5千円

指定管理者の指定

施設名称

八雲町情報交流物産館 丘の駅

指定管理者として指定

株式会社 木蓮

指定する期間

令和2年10月1日～令和7年3月31日まで



議会広報モニター会議を開催しました！

八雲町議会基本条例では「議会は、情報技術の進歩をふまえた多様な広報手段を活用し、多くの町民が議会と町政に関心を持つ議会広報活動に努める」と定められています。

議会では、広報活動に対するご意見・ご提案を、広く町民の皆様から聴くために「議会広報モニター」を募集したところ、5名の方から応募がありました。

8月18日、新しい議会広報モニターのみなさんと懇談し、議会広報に関する貴重なご意見をいただきました。更なる議会広報の充実に向けて、今後も意見・提案等を参考にしながら取り組んで参りたいと思います。

「耳をすまして」のように町民の話を聴けるのはいいと思う。

地域の身近な話題があれば読みやすい。

誌面の構成、4段から5段にするのも良いのでは？

表紙の写真、カラーだといいと思う。

匿名で「読者の声」を載せては？

読んでもらうには、見出しのインパクトが大事。

新しいモニターのみなさんです。よろしくお願いします。



水野さん



近藤さん



岡田さん



小熊さん



手塚さん

議会広報モニターとは

議会広報誌をはじめ、議会広報活動をより充実したものにするために、議会広報モニター会議等で意見・提案を述べていただきます。任期は2年間となります。

定例会・臨時会議件一覧

令和2年第5回臨時会（令和2年7月31日）			
議案第1号	八雲町一般職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例	議案第4号	令和2年度八雲町一般会計補正予算（第8号）
議案第2号	工事請負契約の締結について	承認第1号	専決処分の承認を求めることについて（令和2年度八雲町一般会計補正予算（第7号））
議案第3号	財産の取得について		
令和2年第3回定例会（令和2年9月10日～16日）			
認定第1号	令和元年度八雲町一般会計歳入歳出決算認定について	議案第14号	令和2年度八雲町病院事業会計補正予算（第3号）
認定第2号	令和元年度八雲町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	議案第15号	令和2年度八雲町一般会計補正予算（第11号）
認定第3号	令和元年度八雲町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	議案第16号	令和2年度八雲町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
認定第4号	令和元年度八雲町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	承認第1号	専決処分の承認を求めることについて（令和2年度八雲町一般会計補正予算（第9号））
認定第5号	令和元年度八雲町熊石地域簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	承認第2号	専決処分の承認を求めることについて（令和2年度八雲町病院事業会計補正予算（第2号））
認定第6号	令和元年度八雲町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	報告第1号	株式会社青年舎の経営状況の報告について
認定第7号	令和元年度八雲町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	報告第2号	令和元年度八雲町病院事業会計継続費の精算について
認定第8号	令和元年度八雲町病院事業会計決算認定について	報告第3号	専決処分の報告について（奨学金の返還に関する和解について）
認定第9号	令和元年度八雲町水道事業会計決算認定について	同意第1号	八雲町固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求めることについて
議案第1号	八雲町町営住宅条例の一部を改正する条例	同意第2号	八雲町農業委員会委員の任命に関し同意を求めることについて
議案第2号	八雲町都市計画審議会条例の一部を改正する条例	同意第3号	八雲町教育委員会委員の任命に関し同意を求めることについて
議案第3号	八雲町立学校設置条例の一部を改正する条例	発委第1号	国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書
議案第4号	工事請負契約の締結について	発委第2号	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書
議案第5号	訴え提起前の和解の申立てについて	発議第1号	新型コロナウイルス感染症対策の強化等を求める意見書
議案第6号	訴えの提起について	発議第2号	コンビニ交付サービスを活用した罹災証明書の交付を求める意見書
議案第7号	指定管理者の指定について	発議第3号	特別定額給付金に係る死亡世帯主の取扱いに関する意見書
議案第8号	北海道市町村職員退職手当組合理約の変更について	発議第4号	ドクターヘリの安定・持続的運用への支援強化を求める意見書
議案第9号	北海道市町村総合事務組合理約の変更について	発議第5号	北海道子どもの医療費無料化制度の拡充を求める意見書
議案第10号	北海道町村議会議員公務災害補償等組合理約の変更について	発議第6号	種苗法改正案の慎重な審議を求める意見書
議案第11号	八雲町過疎地域自立促進市町村計画の変更について	決算特別委員会審査報告書	
議案第12号	令和2年度八雲町一般会計補正予算（第10号）	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出書	
議案第13号	令和2年度八雲町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）		

異議あり!

第3回定例会 賛否一覧 (反対のあった議案を掲載)

賛成 ○ 反対 ×

議 案 名	採決結果	関口正博	佐藤智子	横田喜世志	齋藤實	大久保建一	赤井睦美	三澤公雄	田中裕	牧野仁	安藤辰行	宮本雅晴	千葉隆	黒島竹満	能登谷正人
認定第2号 令和元年度八雲町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第3号 八雲町立学校設置条例の一部を改正する条例	可 決	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
発議第2号 コンビニ交付サービスを活用した罹災証明書交付を求める意見書	可 決	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
発議第3号 特別定額給付金に係る死亡世帯主の取扱いに関する意見書	否 決	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
発議第5号 北海道子どもの医療費無料化制度の拡充を求める意見書	否 決	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×

※能登谷 正人議長は賛否同数の場合に、その可否を決定します。

今年も植樹祭できました!

毎年春に行われている植樹祭ですが、今年はコロナの関係で10月12日に行われました。

当日は雨の予報もありましたが、雨には降られず、専門家の方にご指導をいただきながら、無事に600本のトドマツを植えることができました。

準備してくださった皆様に、心から感謝です。立派に育ちますように!



議会のうごき

《8月》

- 7日 総務経済常任委員会
- 12日 議会運営委員会
- 27日 文教厚生常任委員会

《9月》

- 4日 議会運営委員会
- 10日~16日 第3回定例会
- 10日 全員協議会
- 総務経済常任委員会
- 11日~15日 決算特別委員会
- 15日 総務経済常任委員会
- 16日 議会運営委員会
- 広報広聴常任委員会
- 24日 文教厚生常任委員会

《10月》

- 5日 広報広聴常任委員会
- 13日 広報広聴常任委員会
- 15日 文教厚生常任委員会
- 20日 広報広聴常任委員会
- 29日 第6回臨時会
- 総務経済常任委員会



常任委員会 の活動

令和2年8月から10月の
各常任委員会の活動です。

文教厚生

所管各課から報告を受けた中で、
主なものをお知らせします。

【八雲総合病院】

10月から、産婦人科の診療体制
が変わりました。

今まで、産婦人科は2名の常勤
医師で診療していましたが、患者
数が250人以下の場合は、医師
が一人体制となるため、常勤医師

1名と出張医で対応することとな
りました。ちなみに平成22年度の
入院数は268件でしたが、令和
元年度では119件だそうです。
少子化とは言え、10年で半分以上
という数字には驚きです。八雲町
は、産婦人科と小児科があるので、
子育てもしやすいと言われていま
すが、このまま減少が続くと産婦
人科そのものの存続が危機的な状
況になるかもしれません。



【熊石国保病院】

建替事業、基本設計業務の業者
が、株式会社社本建築事務所札幌
オフィス（札幌市）に決まりました。

八雲総合病院で勉強会を行いました

10月15日、経営改善アドバイザ
リーとして総合病院のコンサルタン
トを行っている小林洋一氏を講師に
お迎えし、総合病院の現状と今後に
ついての勉強会を行いました。

2020年度の経営方針として、
中期（5カ年）目標、2019年度
に対し4億円の収支改善、短期（今
期）目標、2019年度に対し8千
万円の収支改善を目指し、10本以上
の戦略を立て、スタッフが一丸と
なって取り組む予定でしたが、新型
コロナウィルス感染症の影響もあり、
思うように進むことができていない
とのことでした。また、八雲総合病
院だけでは解決できない課題も多く、
経営改善の難しさを実感しました。
方針が明確であることから、感染拡
大が収まった後には、大いに期待で
きると思っています。

今回の学習会では「レスパイト入
院」という仕組みを知ることができ
ました。訪問診療を提供している患
者を中心に、短期間入院することで
患者も専門的なりハビリを受けるこ

とができ、介護する家族も休息がで
きるという仕組みで、すでに総合病
院では取り組んでいるそうです。今
後は、包括ケアシステムの中で、精
神デイ・ケアの提供やレスパイト入
院も想定されているということです。
健康が一番ですが、事故や病気等
で何らかのケアが必要になったとき、
こうした仕組みがあると、ケアを受
ける方にとっても、担う方にとつて
も、気持ちが楽になりますね。病院
は健康な方にとっては無縁なところ
ですが、高齢化が進んでいる今、近
くて便利、いつでも安心して頼るこ
とができる、そんな存在でいてほし
いですね。そのためにも、大いに総
合病院を活用しましょう！



総務経済

所管各課から報告を受けた中で、主なものをお知らせします。

●北海道新幹線建設工事八雲町区間の進捗状況について（新幹線推進室）

令和2年9月4日、盤石トンネルの工事が開始されたことにより、八雲町区間の全てのトンネル工区で掘削がされていることとなりました。

八雲町内区間のトンネル総延長は約41kmで、9月1日現在で約14km掘削済みとなっています。

●八雲町バイオマス利活用施設にかかる処理業者の契約解除について（水産課）

これまでの取り組み

鉛川にあるバイオマス利活用施設は町で建設し、指定管理者である「八雲町バイオサイクル協同組合」が運営してきました。実際の堆肥作り等の作業は、「(株)ばん

けいりサイクルセンター」と契約し、ホタテのウロや付着物を受け入れ、堆肥を製品化してきました。契約解除に至る経過

・平成30年8月 (株)ばんけいりサイクルセンターがウロの受入れ停止と、外部処理にかかる費用負担を組合に求めるが、組合はこれを拒否。

・平成30年10月 (株)ばんけいりサイクルセンターがウロ処理を15年の期間をかけて堆肥化処理することと、再度ウロの受入れ停止を求めるが、組合はこれを拒否。

・平成31年3月 組合の運営委員会において、(株)ばんけいりサイクルセンターとの契約は継続するが、ウロ処理の具体案が示されない場合は契約解除する方針を確認。
・令和2年4月 (株)ばんけいりサイクルセンターとの契約を解除し、新たに(株)弘産工業と堆肥化業務委託契約を締結した。



委員会としての意見

この施設を建設するにあたり、ウロ処理には、蓄積されたノウハウと高い技術が必要であるとされ、それは(株)ばんけいりサイクルセンターにしか出来ないこと、両漁協は一貫して述べていた。

議員の一部からは、「適切な処理が行われるのか疑問」「ウロ処理物を含んだ堆肥の流通が不透明」という声もあったが、議決され今日に至っている。

町が支出する予算の外で行われていることなので、町は報告を受けている義務も、議会に報告する義務もない。指定管理者制度の盲点といえる。

八雲町の主産業のひとつであるホタテ生産に直結する問題に、議会も町も関われない事実を重く受け止め、今後委員会として注視していきたい。

・実証実験は7月20日～8月22日の34日間で実施。

・運行主体は(有)東ハイヤー。
・運行区間は太田く熊石間。
・運行回数は40回で利用人員は延べ87人。

函館バスによる太田く熊石間の運行は令和2年9月30日をもって廃止となり、令和2年10月1日より新たに「予約バス」の運行が始まりました。乗車料金は1回200円。

実証実験では1日3便でしたが、利便性を考慮し7便に増便となりました。この結果を活かし、他の地区においても新たな「八雲の足」ができることを期待しています。

太田く熊石間

「予約バス」運行開始！

●ご利用の流れ

- 1 電話でバスを予約
- 2 東ハイヤーで予約を受付
- 3 予約状況に応じて運行
- 4 目的地に到着

●「松山海岸線予約バス試験運行結果」について（政策推進課・地域振興課）

耳をすまして

町民の皆さまの声が聞きたくて、議会を飛び出し町内の色々な団体やサークルなどの皆さまの声を聞いてみました。

今回は

八雲大好き！共済の獣医さんたちです！

(光藤さん、大江さん、村岡さん) ※左から

Q 犬や猫の獣医ではなく、どうして牛なんですか？

牛が可愛いからです！

Q 勤務地として八雲を選んだのはどうしてですか？

他へ行く予定だったのですが、八雲の共済で実習してから、八雲が好きになって、志望を変えて八雲に来ました。

Q 八雲のいいところは？

何でもそれなりに揃っている、ほどよい田舎。海がすごくきれい。感動します。海と山と両方あって、自然と遊べる。人と人の距離が近く、どこに行っても人があったかい。

Q 勤務体制は？

前月末にシフトが決まって、夜勤当番（自宅待機し、呼び出されたら、すぐ出動！）もある。黒岩から落部まで町内全域が担当エリア。

Q 獣医さんの女性の比率は？

八雲の共済では14人中、女性は4人だが、国内平均では6：4くらいで女性の方が多い。産休や育休は先輩たちのお陰で、取りやすい時代になった。

Q 結婚後も仕事を続けますか？

6年間、大学に通わせてもらって、親にもお金をもらっているの、1～2年で専業主婦になりますとは言えないので、働きたいです。

Q 獣医さんの視点から、八雲に望むことは？

大規模化が進んで、個人の農家さんが無くなっていくのは寂しい。知り合いで、「他の地域ではうまくいかなかったが、八雲町では役場が繋いでくれて就職できた。」という新規就農者の方みたいに、後継ぎのいない農家に入ることができれば、開業資金も抑えられる。地元や町外の人が、既存設備を活用できれば、もっと楽しいと思う。



Q 牛の出産には何回も立ち会われたのですか？

難産の場合に呼ばれる。スムーズな分娩のときには呼ばれない。

Q 仕事で一番きつかったことは？

新米の頃、一人でやり遂げることができない時が一番きつかった。でも皆さん優しく、できるまで見守ってくれる。できるようになったら、「成長したね」と認めてくれる。皆さんに育てられて、やっと自信を持って仕事ができるようになった。これからは恩返しをしていきたい。

・・・取材を終えて・・・

女性獣医さん、3人にお話を伺いました。八雲を気に入って着任されたこと、仕事への情熱、牛への愛情など、いきいきと話す姿は輝いていて、大変元気をいただきました。益々のご活躍を期待しています。



営利を目的とする場合を除き、この議会広報誌をそのまま読むことが困難な方のために、録音図書・拡大写本等へ複製することを認めます。製作後は八雲町議会事務局（☎0137-62-2388）へご報告ください。

編集後記

9月に安倍内閣が総辞職し、菅政権が誕生しました。変化していく情勢に驚くことが多い昨今です。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で東京オリンピック・パラリンピックの開催が延期となりました。町内行事も山車行列や平和事業、文化祭や全町一日健康のつどい等々、中止が相次ぎました。町内経済に及ぼす影響も甚大です。

そんな中、少しずつ運動会や学校祭、有志イベントなど縮小ながらも工夫を凝らした開催が繰り広げられるようになってきました。関係者のご尽力に頭が下がります。

問題は、この冬、インフルエンザなど、発熱を伴う症状をどれだけ抑えることができるか、発生したとしても拡大を防ぐ対応が出来るかという事です。

私たちも、睡眠や食事に気を付け、健康を保つよう努力していきたいと思えます。一緒に乗り切っていきたいと思います。

議会広報広聴常任委員会

佐藤 智子